

住民基本台帳人口移動報告

MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

平成24年 1月30日

平成23年結果

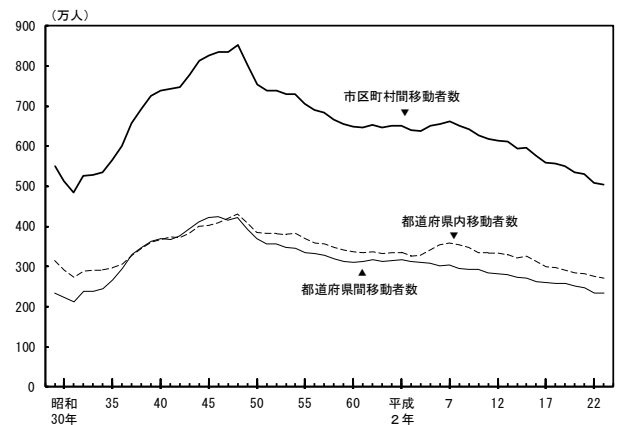
— 全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況 —
(要約)

1 全国の移動状況

都道府県間移動者数は平成7年以来16年ぶりに増加，0～4歳が最も増加

- 平成23年における日本人の市区町村間の移動者数は504万4239人となり，8年連続の減少
- 都道府県間移動者数は233万8519人となり，平成7年以来16年ぶりに増加
- 年齢5歳階級別では，前年に比べて0～4歳が8384人の増加と最も多く，次いで40～44歳が6800人の増加
- 都道府県内移動者数は270万5720人となり，8年連続の減少 (「結果の概要」1ページ)

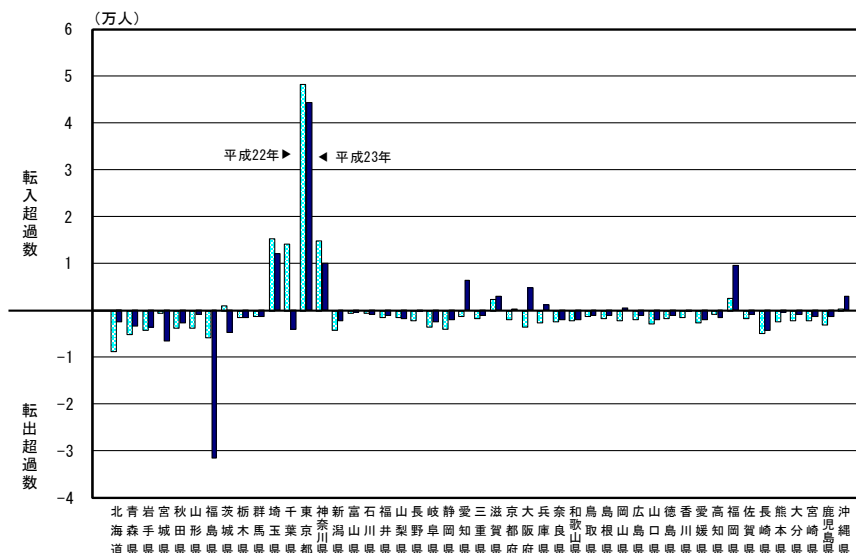
図1 移動者数の推移 (昭和29年～平成23年)



大阪府は平成7年以来16年ぶりに転入超過，千葉県は昭和31年以来55年ぶりに転出超過

- 平成23年における都道府県別の転入・転出超過数をみると，転入超過となったのは11都府県。5府県が前年の転出超過から転じる。大阪府及び京都府は平成7年以来16年ぶり，岡山県は平成9年以来14年ぶりに転入超過
- 東京都，埼玉県及び神奈川県は転入超過数は，いずれも減少
- 福岡県の転入超過数は前年に比べて7046人の大幅な増加
- 茨城県及び千葉県は前年の転入超過から転出超過に転じる。千葉県は昭和31年以来55年ぶりに転出超過 (「結果の概要」5ページ)

図2 都道府県別転入・転出超過数 (平成22年, 平成23年)

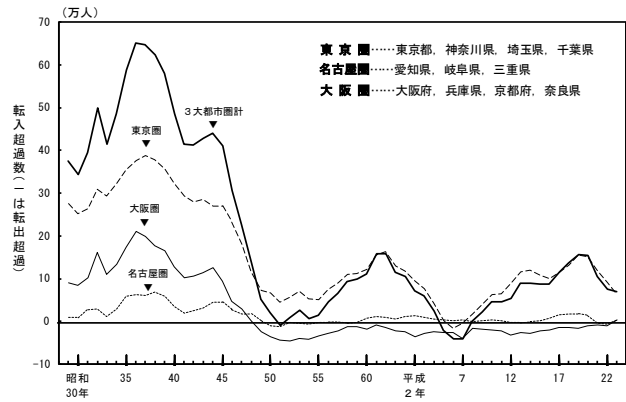


大阪圏は昭和48年以来38年ぶりに転入超過

- 平成23年における3大都市圏（東京圏、名古屋圏及び大阪圏）の転入・転出超過数をみると、3大都市圏全体では7万78人の転入超過となり、平成8年以降16年連続で転入超過。前年に比べて6059人の減少
- 東京圏は6万2809人の転入超過。前年に比べて3万20人減少
- 名古屋圏は3060人の転入超過。平成20年以来3年ぶり
- 大阪圏は4209人の転入超過。昭和48年以来38年ぶり

（「結果の概要」6～12ページ）

図3 3大都市圏の転入・転出超過数の推移（昭和29年～平成23年）



全国の市町村のうち7割が転出超過、転出超過数上位20市町村のうち14市町が岩手県、宮城県及び福島県

- 全国1718市町村^{注1)}のうち、転入超過^{注2)}は東京都特別区部（3万5435人）、福岡県福岡市（1万1129人）、北海道札幌市（1万254人）など505市町村。全市町村の29.4%
- 転出超過は福島県郡山市（7232人）、同いわき市（6194人）、宮城県石巻市（5459人）など1213市町村。全市町村の70.6%
- 転出超過数上位20市町村のうち14市町が岩手県、宮城県及び福島県

（「結果の概要」13～14ページ）

注1) 東京都特別区部は1市として扱う。また、平成23年12月31日現在、住民基本台帳ネットワークシステムに接続していない福島県矢祭町及び東京都国立市の2市町については、転出者数及び転入超過数においては除く。

注2) 転入超過数0の市町村については転入超過に含める。

表1 転入・転出超過数上位20市町村（平成22年、平成23年）

(人)					(人)				
	転入超過数の上位20市町村	平成23年	平成22年	対前年増減数		転出超過数の上位20市町村	平成23年	平成22年	対前年増減数
1 (1)	東京都特別区部 (東京都)	35,435	33,098	2,337	1 (838)	郡山市 (福島県)	-7,232	-54	-7,178
2 (4)	福岡市 (福岡県)	11,129	5,389	5,740	2 (3)	いわき市 (福島県)	-6,194	-1,130	-5,064
3 (5)	札幌市 (北海道)	10,254	5,288	4,966	3 (71)	石巻市 (宮城県)	-5,459	-418	-5,041
4 (2)	大阪市 (大阪府)	8,777	5,820	2,957	4 (129)	福島市 (福島県)	-4,410	-325	-4,085
5 (28)	仙台市 (宮城県)	6,633	1,170	5,463	5 (346)	南相馬市 (福島県)	-3,523	-184	-3,339
6 (3)	さいたま市 (埼玉県)	5,239	5,693	-454	6 (1)	市川市 (千葉県)	-3,160	-1,683	-1,477
7 (10)	藤沢市 (神奈川県)	3,796	2,919	877	7 (75)	気仙沼市 (宮城県)	-2,375	-402	-1,973
8 (16)	神戸市 (兵庫県)	2,774	2,158	616	8 (1542)	浦安市 (千葉県)	-1,956	151	-2,107
9 (6)	川崎市 (神奈川県)	2,317	4,778	-2,461	9 (769)	南三陸町 (宮城県)	-1,628	-66	-1,562
10 (11)	川越市 (埼玉県)	2,244	2,497	-253	10 (611)	山元町 (宮城県)	-1,481	-98	-1,383
11 (21)	広島市 (広島県)	1,999	1,415	584	11 (141)	多賀城市 (宮城県)	-1,463	-306	-1,157
12 (132)	新潟市 (新潟県)	1,743	280	1,463	12 (1585)	松戸市 (千葉県)	-1,457	246	-1,703
13 (1516)	名古屋市 (愛知県)	1,679	-256	1,935	13 (441)	大槌町 (岩手県)	-1,299	-143	-1,156
14 (14)	八王子市 (東京都)	1,560	2,308	-748	14 (322)	東松島市 (宮城県)	-1,276	-194	-1,082
15 (23)	草津市 (滋賀県)	1,537	1,372	165	15 (8)	尼崎市 (兵庫県)	-1,202	-1,015	-187
16 (118)	大和市 (神奈川県)	1,536	328	1,208	16 (1373)	陸前高田市 (岩手県)	-1,184	19	-1,203
17 (1363)	盛岡市 (岩手県)	1,502	-179	1,681	17 (57)	高槻市 (大阪府)	-1,152	-485	-667
18 (7)	横浜市 (神奈川県)	1,388	3,781	-2,393	18 (54)	浪江町 (福島県)	-1,140	-111	-1,029
19 (15)	流山市 (千葉県)	1,358	2,204	-846	19 (7)	呉市 (広島県)	-1,129	-1,035	-94
20 (1725)	吹田市 (大阪府)	1,348	-1,366	2,714	20 (1405)	富岡町 (福島県)	-1,086	28	-1,114

注1) () 内は平成22年の順位。

注2) 東京都特別区部は1市として扱う。

注3) 転入・転出超過数の「-」は転出超過を表す。

2 岩手県、宮城県及び福島県の移動状況

【3県の転入・転出超過数】転出超過数の合計は4万1226人、転出超過数が4万人を上回るのは昭和45年以来41年ぶり

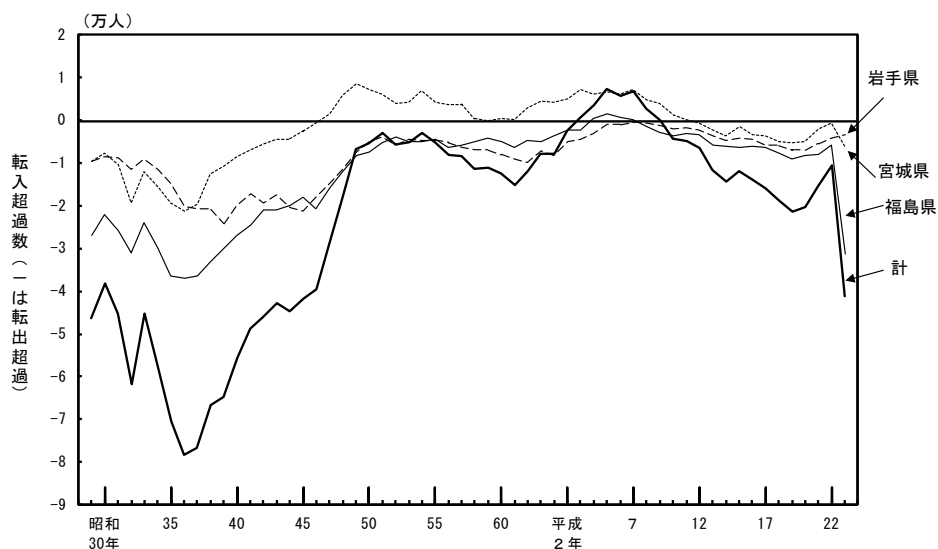
- 平成23年における岩手県、宮城県及び福島県の転出超過数の合計は4万1226人となり、4万人を上回るのは昭和45年以来41年ぶり
- 転出超過数は前年に比べて、宮城県及び福島県は大幅な増加となり、岩手県のみ減少

(「結果の概要」15ページ)

表2 岩手県、宮城県及び福島県の転入者数、転出者数及び転入・転出超過数
(平成22年,平成23年)

区 分		転入超過数 (-は転出超過)			転入者数				転出者数			
		平成23年	平成22年	対前年 増減数	平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減	
							実数	率(%)			実数	率(%)
計	総数	-41,226	-10,546	-30,680	88,159	90,862	-2,703	-3.0	129,385	101,408	27,977	27.6
	男女	-17,394 -23,832	-4,023 -6,523	-13,371 -17,309	50,813 37,346	51,891 38,971	-1,078 -1,625	-2.1 -4.2	68,207 61,178	55,914 45,494	12,293 15,684	22.0 34.5
岩手県	総数	-3,443	-4,238	795	18,756	17,893	863	4.8	22,199	22,131	68	0.3
	男女	-1,376 -2,067	-1,680 -2,558	304 491	10,541 8,215	10,188 7,705	353 510	3.5 6.6	11,917 10,282	11,868 10,263	49 19	0.4 0.2
宮城県	総数	-6,402	-556	-5,846	47,662	47,358	304	0.6	54,064	47,914	6,150	12.8
	男女	-2,220 -4,182	-94 -462	-2,126 -3,720	27,493 20,169	27,045 20,313	448 -144	1.7 -0.7	29,713 24,351	27,139 20,775	2,574 3,576	9.5 17.2
福島県	総数	-31,381	-5,752	-25,629	21,741	25,611	-3,870	-15.1	53,122	31,363	21,759	69.4
	男女	-13,798 -17,583	-2,249 -3,503	-11,549 -14,080	12,779 8,962	14,658 10,953	-1,879 -1,991	-12.8 -18.2	26,577 26,545	16,907 14,456	9,670 12,089	57.2 83.6
全国	総数	0	0	0	2,338,519	2,332,392	6,127	0.3	2,338,519	2,332,392	6,127	0.3
	男女	0 0	0 0	0 0	1,295,677 1,042,842	1,299,835 1,032,557	-4,158 10,285	-0.3 1.0	1,295,677 1,042,842	1,299,835 1,032,557	-4,158 10,285	-0.3 1.0

図4 岩手県、宮城県及び福島県の転入・転出超過数の推移
(昭和29年～平成23年)

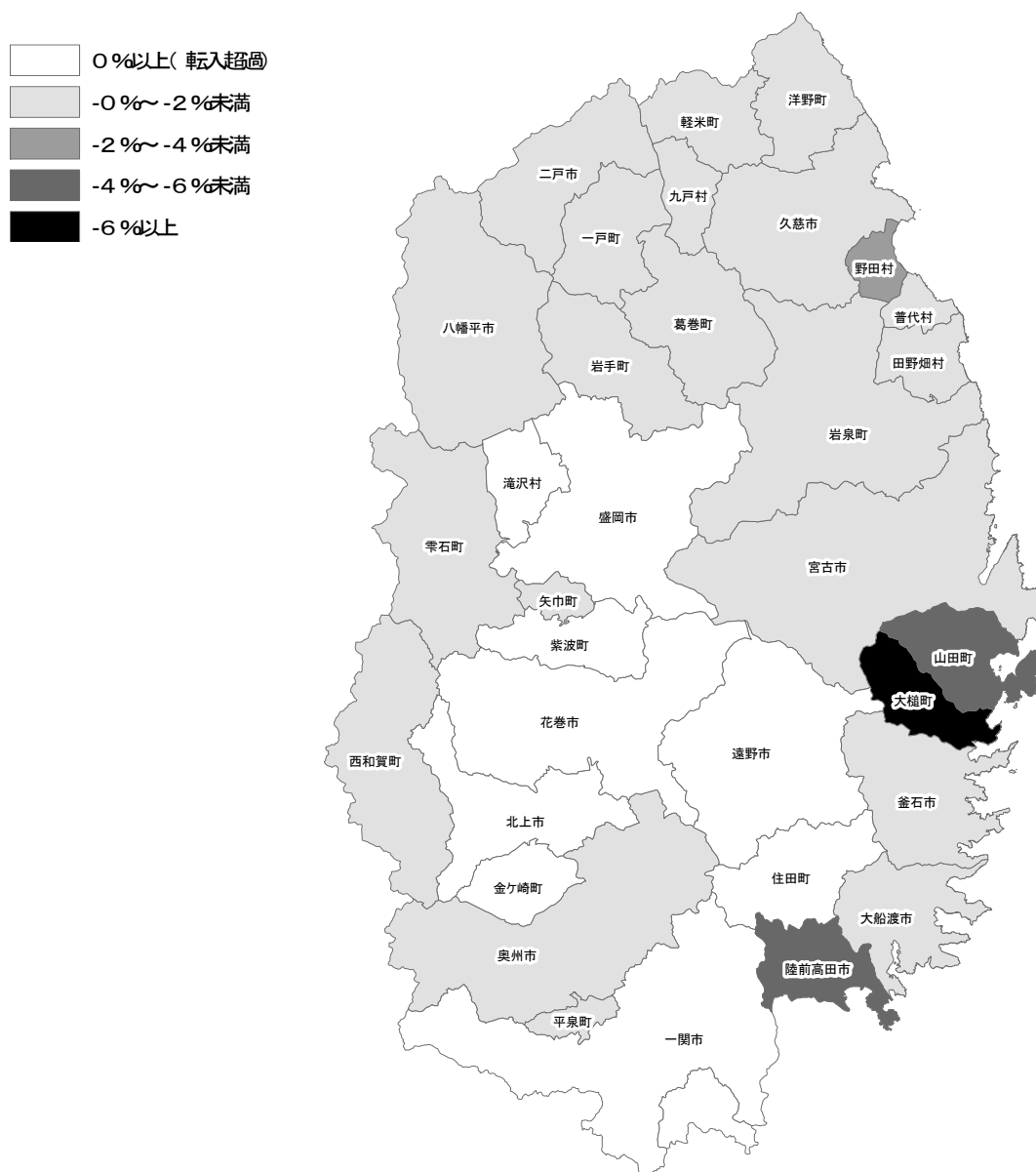


【岩手県】陸前高田市は前年の転入超過から1184人の転出超過，大槌町は前年に比べて転出超過数が1156人の増加

- 平成23年における岩手県の都道府県間移動による転出超過数は3443人となり，前年に比べて795人の減少
- 市区町村間移動による転入・転出超過数をみると転入超過は9市町村。盛岡市，一関市など6市町が前年の転出超過から転じる
- 転出超過は24市町村。陸前高田市は前年の転入超過から1184人の転出超過に転じ，大槌町は転出超過数が前年に比べて1156人の大幅な増加
- 転出超過率^{注)}は大槌町(8.54%)が最も高く，次いで陸前高田市(5.11%)，山田町(4.07%)など
- 0～14歳の転出超過率が最も高いのは大槌町の13.17%で，前年に比べて12.14ポイントの上昇
(「結果の概要」16，19～22ページ)

注) 平成22年国勢調査人口等基本集計結果による，10月1日現在の各市区町村における日本人人口に対する，転出超過の割合。

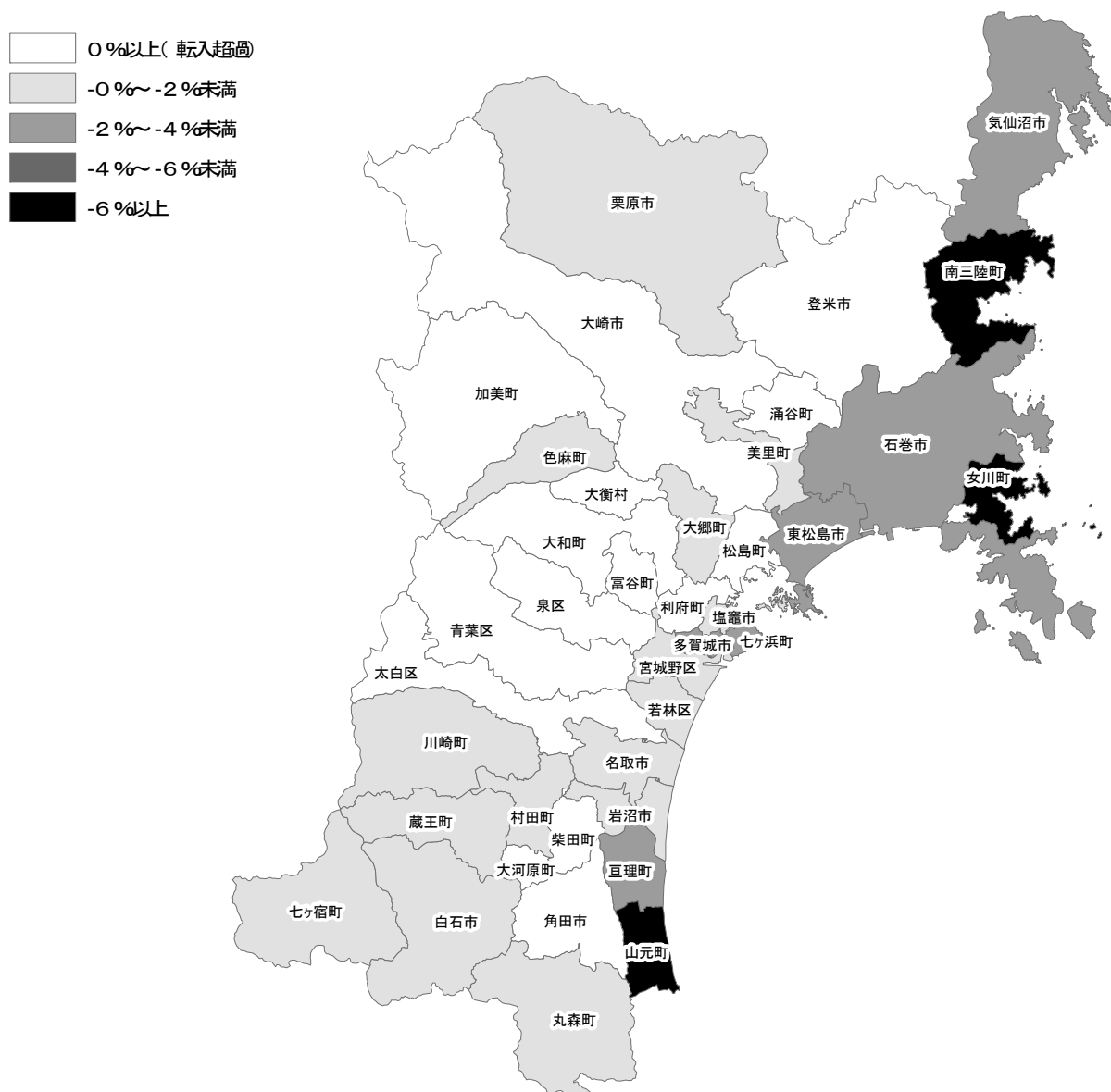
図5 岩手県の市町村別転入・転出超過率(平成23年)



【宮城県】石巻市は5041人、気仙沼市、南三陸町など6市区町が1000人台と前年に比べて転出超過数が大幅に増加

- 平成23年における宮城県の都道府県間移動による転出超過数は6402人となり、前年に比べて5846人の増加
- 市区町村間移動による転入・転出超過数をみると転入超過は15市区町村。登米市、大崎市など8市町が前年の転出超過から転じる
- 仙台市青葉区は3405人、同太白区は2446人、前年に比べて転入超過数が大幅に増加
- 転出超過は24市区町。名取市、亶理町、仙台市若林区など5市区町が前年の転入超過から転じる
- 石巻市は5041人、気仙沼市、南三陸町など6市区町が1000人台と前年に比べて転出超過数が増加
- 転出超過率は南三陸町（9.40%）が最も高く、次いで山元町（8.89%）、女川町（7.36%）など
- 0～14歳の転出超過率が最も高いのは南三陸町の14.55%で、前年の転入超過から転出超過に転じる
（「結果の概要」23, 26～29ページ）

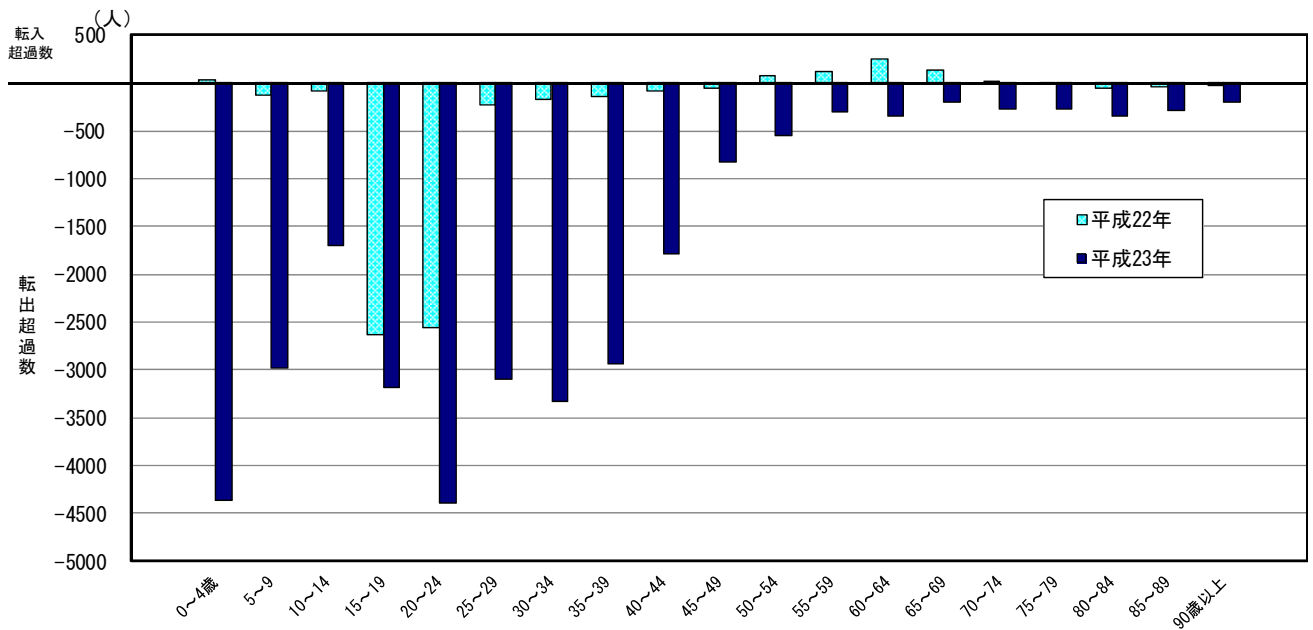
図6 宮城県の市区町村別転入・転出超過率（平成23年）



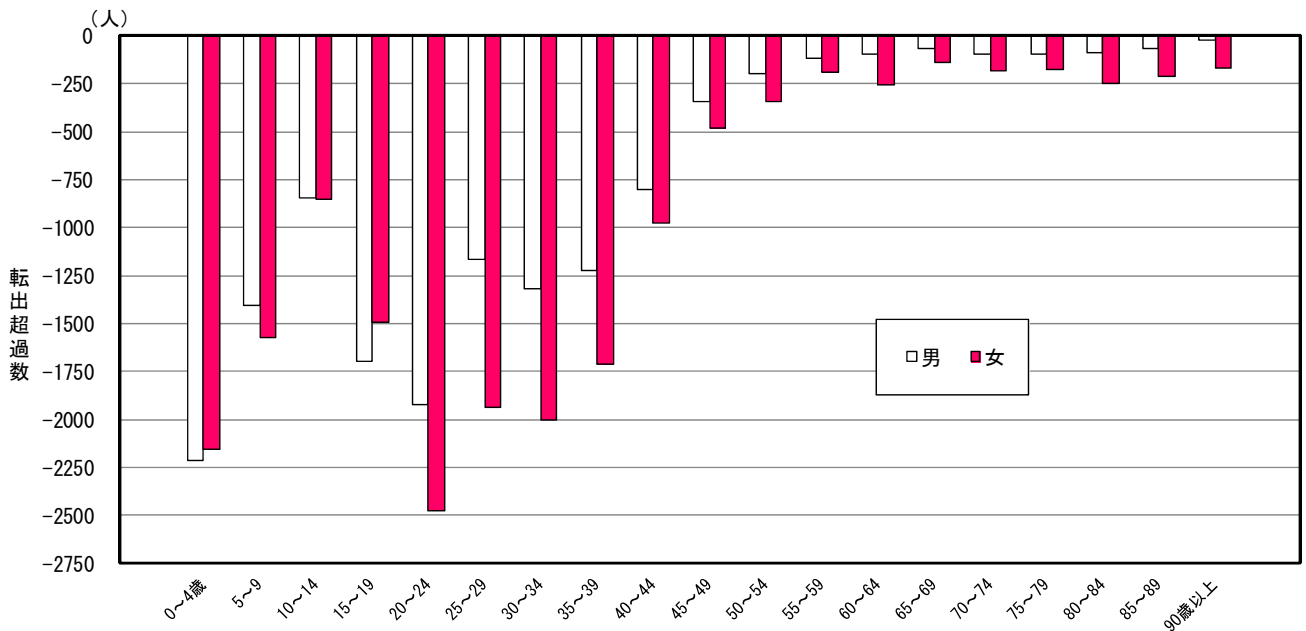
【福島県】転出超過数は昭和38年以来48年ぶりに3万人を上回る。0～14歳の転出超過数は前年に比べて8826人増加の9040人

- 平成23年における福島県の転出超過数は3万1381人となり、昭和38年以来48年ぶりに3万人を上回る。前年に比べて2万5629人の増加
- 年齢5歳階級別にみると、全ての年齢区分で転出超過
- 0～14歳は9040人、25～44歳は1万1142人の転出超過となり、転出超過数は前年に比べて、それぞれ8826人、1万491人の大幅な増加 (「結果の概要」30ページ)

図7 福島県の年齢5歳階級別転入・転出超過数（平成22年，平成23年）



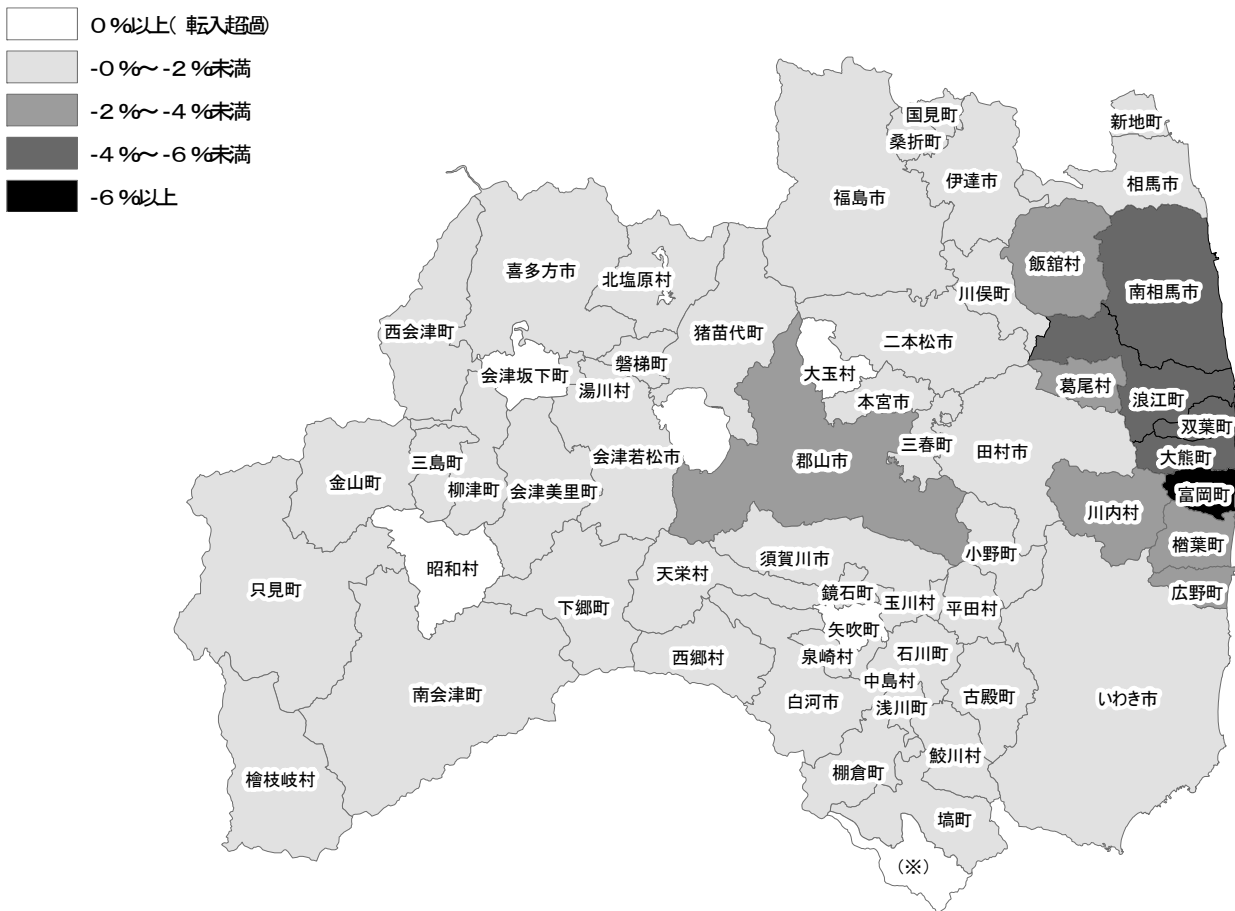
(参考) 福島県の男女、年齢5歳階級別転入・転出超過数（平成23年）



郡山市は 7178人、いわき市は5064人、前年に比べて転出超過数が大幅に増加

- 市区町村間移動による転入・転出超過数をみると転入超過となったのは大玉村、会津坂下町及び昭和村の3町村のみ
- 転出超過は55市町村。富岡町、大熊町など10町村が前年の転入超過から転じる
- 郡山市は7178人、いわき市は5064人、福島市は4085人、南相馬市は3339人、浪江町は1029人、前年に比べて転出超過数が増加
- 転出超過数が前年に比べて減少したのは、会津若松市など17市町村
- 転出超過率は富岡町（6.83%）が最も高く、次いで双葉町（5.56%）、浪江町（5.51%）、南相馬市（4.99%）、大熊町（4.65%）など
- 0～14歳の転出超過率が最も高いのは南相馬市の10.13%で、前年に比べて10.10ポイントの上昇。富岡町、川内村及び浪江町の3町村で8%台
（「結果の概要」33～36ページ）

図8 福島県の市町村別転入・転出超過率（平成23年）



(※) 平成23年12月31日現在、住民基本台帳ネットワークシステムに接続していない矢吹町は除く。

本報告における移動者数は、住民基本台帳法の規定により市町村に届出等のあった転入者に係る情報を集計したものです。

したがって、通常の転居等による移動者も含まれ、東日本大震災の影響を受けて被災地から避難した人に係る移動については、避難先の市町村に転入の届出があった人についてのみ、移動者として集計されています。

また、本報告の数値は平成23年の数値となっています。したがって、震災発生前の数値を含みます。

問い合わせ先：総務省統計局国勢統計課人口移動調査係（TEL：03-5273-1157）

詳細は統計局ホームページ住民基本台帳人口移動報告（<http://www.stat.go.jp/data/idou/index.htm>）のページでも御覧になれます。

住民基本台帳人口移動報告

検索 